

市政概要報告要旨

(令和五年九月五日)

令和五年九月定例市議会にあたり、市政の概要について申し上げます。

はじめに、新型コロナウイルス感染症について申し上げます。

新型コロナウイルス感染症につきましては、感染症法上の位置づけが、五月八日から季節性インフルエンザなどと同じ「五類」に引き下げられ、濃厚接触者の特定や法律に基づく感染者への外出自粛要請がなくなるなど、感染防止対策の緩和が図られ、社会経済活動は活発化しており、コロナ禍前の日常を取り戻しつつあります。

一方で、新規感染者が増加していることから、一人一人が場面に応じた感染対策をとるよう呼びかけております。

また、重症化予防等の効果が期待されるワクチン接種については、現在、重症化リスクが高い六十五歳以上の高齢者や基礎疾患がある方などを対象に、令和五年春開始接種を実施しており、概ね対象者の六割の方が接種を終えました。

今月二十日からは、初回接種を終えた生後六か月以上のすべての方を対象に、令和五年秋開始接種を開始します。市民の皆様には、感染・重症化予防のため、ワクチン接種をご検討いただきたいと思います。

次に、地域経済・市民生活の下支えについて申し上げます。

燃油をはじめとしたエネルギーや原材料価格の高騰の影響が続いていることから、国の交付金などを活用しながら、市民や市内事業者への支援を行っています。

先月二十六日からは、全市民を対象に「さかいみなと応援券」の第三弾として、一人につき五千円分の買物・食事券の配布を開始しており、今月中旬までに全世帯に配布を終える予定としています。

また、事業者に向けては、昨年度に引き続き、エネルギー・原材料価格高騰対策にかかる制度融資を利用した際の利子相当額を最大三年間、全額助成することとしております。

価格高騰による影響が特に大きい世帯への支援につきましては、住民税非課税世帯などに対し、一世帯あたり三万円を給付しているほか、児童扶養手当受給世帯などの子育て世帯に対し、児童一人あたり五万円を給付しています。また、生活保護受給世帯や児童扶養手当受給世帯などに対し、光熱費等の補助を行っております。

今後も引き続き、関係機関と連携しながら、地域経済や市民生活を下支えしてまいります。

次に、市民の健康づくりについて申し上げます。

高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施につきましては、市民が気軽に健康相談や栄養相談ができる場として、「境港ここから！ニコニコ健康くらぶ」を市内三会場で実施しています。食育SATシステムを活用した食事の栄養バランスのチェックや血管年齢測定、姿勢のチェックを行い、一人一人が自ら健康づくりに取り組めるよう、生活習慣や食生活の改善に向けた助言をするなど、元気な高齢者を増やす取り組みを進めております。

また、昨年度の長寿健診において、血圧や血糖値が高かった方を対象に家庭訪問を実施し、現在の健康状態や生活の状況について確認したうえで、必要な保健指導や受診勧奨を行っております。

このほか、健診の受診率向上に向け、国民健康保険の被保険者を対象に人間ドックのウェブ申込を開始したほか、済生会境港総合病院では、人間ドックの実施期間を拡大して受診枠を五十人増やすなど、健診を受けやすい環境づくりを進めています。

小学校高学年の児童を対象とした「こころとからだの健康事業」につきましては、助産師が講師となり、命の始まりから、妊娠、出産までの様子をわかりやすく伝える「命の学習」を実施しています。

児童は、学習を通じて、「生きているだけで百点満点」であることなど、自分や周りの人の命の大切さについて学びました。

今後は、がん教育を含めた、病気の知識と予防について学ぶ授業を新たに実施することとしております。

特別医療費助成制度につきましては、五月に開催された鳥取県と市町村との行政懇談会におきまして、鳥取県知事から、現在、一日あたり、通院は五百三十円、入院は千二百円をご負担いただいている小児の特別医療費について完全無償化の提案があり、全市町村が合意しました。来年四月からの実施に向け、必要となる条例改正及びシステム改修等の補正予算を、今議会に提案しております。

次に、高齢者福祉の充実について申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が五類に移行し、「高齢者ふれあいの家」や「いきいき百歳体操」などの活動が、以前のような活発さを取り戻し、地域の皆様は、楽しみながら自主的にフレイル予防に取り組んでおられます。

地域の「支え愛」活動につきましては、渡地区のサロン「豆カフェ」の再開、小篠津町支え愛マップの更新、夕日ヶ丘二丁目の「のんびり会」での、グラウンドゴルフやお菓子づくりなど、交流の場が広がっています。

このほかの地域においても、自主サークルなどにより地域での活動や交流が図られており、引き続き、生活支援コーディネーターと連携し、地域活動を支援してまいります。

本年度開始した、加齢性難聴者への補聴器購入費助成につきましては、先月二十日現在で二十九件と、多くの方にご利用をいただいております。

補聴器の使用により、日常生活の支障となる「聞こえにくさ」が軽減され、コミュニケーションも円滑になりますので、社会参加の機会を増やし、健康寿命の延伸につなげていただきたいと思います。

また、社会保障の仕組みとして助成制度を創設するよう、国に対し要望を行ったところでもあります。

来年十月に鳥取県で開催される「ねんりんピック鳥取大会」につきましては、本市が会場となる「ソフトバレーボール」及び「eスポーツ」の開催準備を進めるため、六月一日、関係する団体等で構成する実行委員会を設立しました。

また、先月二日には、運営委員会を開催し、総務・企画に関する事など、実行委員会からの委任事項について、協議を行いました。

ねんりんピック開催の機運を盛り上げるため、七月のみなと祭では、eスポーツの体験ブースを開き、高校生とともに普及啓発を行ったほか、今月二日には、みなとテラスにおいて、eスポーツのリハーサル大会を行ったところであります。

本市で開催する交流大会の円滑な運営と心温まるおもてなしにより、参加者・関係者の皆様が、もう一度、境港市を訪れたいと感じていただける大会となるよう、取り組んでまいります。

次に、共生社会の実現について申し上げます。

外国人材の方々が、少しでも早く地域に馴染み、安心して暮らせるよう、やさしい日本語での様々な情報発信、日本語教室の開催のほか、国際交流員による通訳や相談等の支援を継続して行っています。

また、本市在住の外国人等を対象に境港市のいいところ、好きなところを写した写真のコンテストを五月に初めて開催しました。応募作品については、撮影者のコメントを添え、みなとテラスで展示し、外国人が抱く境港市への想いを市民の皆様に感じていただき、相互理解が深まりました。

七月には、四十四人の技能実習生等が境港総合技術高等学校の生徒や市民ボランティアの方々と、日本の料理づくりや浴衣の着付け、七夕飾り等の日本文化を体験し、楽しみながら相互に交流を深めました。

先月は、ベトナムからの国際交流員ダム・ゴック・クアンさんが講師となり、「親子ベトナム教室」を開催し、小学生の親子に、ベトナムの子どもたちが中秋節で遊ぶ提灯作りを通して異文化に触れていただきました。

先月十日、四年ぶり、二十一人目となる中国・琿春市からの国際交流員、金燕（キン・エン）さんが着任しました。

本市と琿春市は、本年、友好都市提携三十周年を迎えることから、来月、琿春市から代表団を招き、記念式典を開催することとしています。

三十周年事業の一環として、七月には、境高等学校で中国語を学ぶ高校生と、琿春市で日本語を学ぶ高校生との間で、オンライン交流を実施しました。将来を担う若い世代の交流を促進することで、今後も末永く交流をしてまいりたいと考えております。

次に、観光振興について申し上げます。

本年一月から先月二十日までの水木しげるロードの入込み客数は、約九十四万人、前年比百五十一%でありました。特にゴールデンウィーク中の、五月四日は、三年九か月ぶりに一日の入込み客数が四万人を超えたほか、先月十一日から十五日までのお盆の時期は、前年比二百二%・約九万二千人にお越しいただくなど、コロナ禍前の賑わいが戻りつつあります。

四年ぶりに水木しげるロード周辺をメイン会場として開催した「みなと祭」には、約四万五千人の方が来場され、ステージイベントや花火大会など、賑わいあふれる夏祭りを楽しめました。

水木しげるロード誕生三十周年を迎えた七月には、記念式典を開催したほか、「音声ARアプリ」を活用し、ロードを探索するイベント「夜の妖怪ぶらり旅」を実施するとともに、新作アニメ「悪魔くん」の先行上映と声優などによるトークショーを行いました。

水木しげる記念館は休館中ですが、十一月九日には「悪魔くん」の全世界に向けたオンデマンド配信が開始され、同月十七日には、映画「鬼太郎誕生 ゲゲゲの謎」が公開されます。

引き続き、境港観光協会や水木しげるロード振興会をはじめ地域の方々と連携しながら、わくわく感を高める情報発信を行い、誘客促進に取り組んでまいります。

水木しげる記念館の再整備につきましては、五月に既存建物の解体工事を終え、六月に着手した建設工事は、先月、基礎工事が完了しました。現在、建築物の骨組となる鉄骨工事を行っており、順調に進捗しているところであります。

なお、展示業務については、今月中の契約締結を予定しております。

また、建設工事現場の仮囲いには、アニメ「悪魔くん」や映画「鬼太郎誕生 ゲゲゲの謎」のビジュアル等が迫力あるサイズで描かれており、多くの皆様に楽しんでいただいております。

クルーズ客船につきましては、国際船の寄港が三年四か月ぶりに再開し、三月二十二日のウエステルダムを皮切りに、先月二十日までに十八回の寄港があり、約一万七千人が境港市を訪れました。なお、本年は、十一月までに二十八回の寄港が見込まれています。

米子鬼太郎空港においては、本年から米子・羽田便が、一年を通じて一日六便運航され、新型コロナウイルス感染症の五類移行などにより、七月末時点の利用率が六十一%と、前年同時期を十一ポイント上回り、利用状況は順調に回復しております。

また、国際チャーター便が、三月の台湾便を皮切りに、四月にはソウル便、さらに七月には香港便と、続けて運航されました。

定期便の再開が望まれる中、七月三日、鳥取県知事が韓国エアソウル社の社長と面会し、来月二十五日から四年ぶりに、ソウルとの定期便が再開されることとなりました。

引き続き、鳥取県や境港管理組合、中海・宍道湖・大山圏域観光局など、関係機関とともに、国内外から圏域への誘客促進に取り組んでまいります。

次に、水産業の振興について申し上げます。

令和五年上半期の境漁港における水揚量は、マサバ、マイワシ類等の豊漁により八万一千トン余で、前年比 百十二%、水揚金額については、百三十六億二千万円余、前年比 百十六%でありました。

マグロ漁は、五月二十五日から七月十九日まで行われ、水揚量は一千トン余で、前年比 百二%でありました。また、昨年に続き、大きさは、八十キロ台が主体で、脂の乗りも良く、市場の評価は良好でしたが、外国産や養殖マグロの流通量が増えたことなどから、平均単価は過去最高値であった昨年より下がり、水揚金額は十八億五千万円余で前年比 八十八%でありました。

六月十八日には、「境港まぐろ感謝祭」が四年ぶりに開催され、約六千人の方が来場されました。昨年度供用開始された二号上屋を活用した初めての大型イベントとなり、境漁港エリアの賑わい創出となりました。

また、先月二十九日には、境港水産振興協会 会長及び山陰旋網漁業協同組合 組合長とともに国に対して、本市水産業の維持・向上にとって極めて重要である「T A C（漁獲可能量制度）における追加配分や配分枠見直し等に、より迅速・柔軟に対応する仕組みの構築」及び「民間の冷凍・冷蔵施設の増築・更新などに対する支援の拡充」について、要望してまいりました。

境漁港の高度衛生管理型漁港・市場整備につきましては、「かにかご上屋」が完成し、先月、新たな漁期の始まりにあわせ供用開始されました。残りの施設整備も進められており、令和七年度に整備が完了する予定と伺っております。

「S e a級グルメ全国大会 i n 境港」につきましては、先月の実行委員会において、来年十一月九日・十日の二日間、竹内団地の境夢みなとターミナルの南側駐車場をメイン会場、夢みなと緑地をサブ会場として、開催することが決まりました。竹内南地区全体が賑わうイベントにしたいと考えており、プロモーションを含む計画策定費用にかかる補正予算を今議会に提案しております。

なお、来月末に開催される静岡県沼津市での全国大会には、市内のNPO法人が開発された「境港海鮮いぶし丼」を、本市の代表グルメとして決定し、大会に出品していただくこととしております。

次に、圏域の連携について申し上げます。

七月十九日、鳥取県西部地域振興協議会と中国横断自動車道岡山米子線（蒜山ＩＣ～境港間）整備促進期成同盟会の合同で、国と地元選出国會議員に対して「米子・境港間を結ぶ高規格道路の早期事業化」や「米子道四車線化の早期実現」など鳥取県西部圏域の交通網充実に向けた要望を行ってまいりました。

また、先月七日、中海・宍道湖・大山圏域を「８の字」に結ぶ高規格道路ネットワークの実現に向けて活動する組織として、「中海・宍道湖８の字ルート整備推進会議」が発足しました。推進会議には、行政や議会、経済団体などが参加しており、圏域が一丸となって、国に対して強く働きかけるなど、取り組みを進めていくこととしております。

先月十日には米子市との連携懇談会を三年ぶりに開催しました。

会議では、米子市長と「脱炭素社会の実現」に向けたブルーカーボンの推進などに、両市が力をあわせて取り組むことを確認したところであります。

このほか、「ＪＲ境線の更なる有効活用」や「インバウンド」に向けた二次交通の充実などについても、取り組むことで一致しました。

引き続き、両市が抱える共通した課題の解決に向け、連携して取り組み、両市、ひいては中海・宍道湖・大山圏域の発展につなげてまいりたいと考えております。

次に、学校教育について申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の五類移行などにより、学校での活動も活発になってまいりました。六月には、四年ぶりに、すべての小学校で広島への修学旅行を実施したほか、七月には、小学生十二人が沖縄県伊平屋村を訪問し、地元の児童たちと教育交流を行い、中学生十人は、体験型英語学習施設「東京都英語村」において英語だけでコミュニケーションを図るという普段の生活ではできない貴重な体験をしました。

特別支援教育の推進につきましては、特別支援コーディネーターを一人から二人に増員し、支援が必要な児童・生徒への指導に関する助言や保護者との教育相談を行うなど、児童・生徒の個々のニーズに寄り添った支援・指導体制の充実を図っております。

また、中学校の休日の部活動について、本格的な地域移行に取り組んでおり、これまで試行してきた、陸上競技部とハンドボール部に加え、サッカー部、卓球部、野球部を地域移行しました。

今後も、地域の方々と連携し、子どもたちが持続的に部活動に取り組むことができる環境づくりに取り組んでまいります。

次に、社会教育について申し上げます。

境港市民交流センター「みなとテラス」につきましては、七月十日に開館一周年を迎えました。

市民ホールでは、開館一周年記念公演として「妖怪影絵劇 ゲゲゲの鬼太郎」が上演されたほか、市民図書館では、子どもたちがくす玉を割り、にぎやかに一周年を祝ったほか、講演会やミニコンサートなどを開催しました。

開館以来、ホールやエントランス等では、コンサートや演劇、マーケットなど様々なイベントが開催され、市民図書館や自習スペースでは、利用者が思い思いの時間を過ごされるなど、多くの来館者で賑わっています。

特に、市民図書館では、昨年七月から本年六月までの一年間の入館者数が、約十六万七千人と、リニューアル前の約三倍となっており、親子連れや学生、さらには市外の方など、多くの方にご利用いただいています。引き続き、「みなとテラス」が、「みんなが集まる広場」のような施設として皆様に親しまれるよう、賑わいの創出と交流の促進に市民の皆様と一緒に取り組んでまいります。

次に、環境対策について申し上げます。

脱炭素社会の実現に向けた取り組みにつきましては、七月に「渡太陽光発電所」が完成し、先月、稼働しました。現在、順調に運転を行っており、地域新電力会社に売電して得た収入を家庭用太陽光発電設備等の導入に対する補助金の財源として活用することとしております。

また、米子市及び民間事業者と取り組んでいる「脱炭素先行地域づくり事業」につきましては、先月から学校給食センターへの太陽光発電設備の設置工事に着手しており、来年二月に完成する予定としております。

来年度以降は、下水道センターの敷地や耕作放棄地への設置を予定しており、引き続き、公共施設の脱炭素化を計画的に進めてまいります。

海や海辺の環境を守る取り組みにつきましては、新たな取り組みとして、砂浜とサイクリングコース間の緑地部分のごみとマイクロプラスチックの回収作業を、市内の障がい者就労支援事業所に委託し、五月から来月にかけて、行うこととしています。

また、先月、海岸清掃ボランティアの登録制度を立ち上げました。

市では、ご寄付いただいた清掃ボランティア用ビブスやごみ拾い用火ばさみの貸し出しを行うとともに、活動状況を市報やホームページなどにより紹介することで、一人でも多くの方のボランティア登録につなげ、清掃活動を広げていきたいと考えております。

次に、快適な生活環境づくりについて申し上げます。

空家対策につきましては、先月二十日時点で、除却については十七件、利活用については五件の補助金申請があり、本年度も、順調に制度の活用が進んでおります。

また、「空き家情報バンク」については、四月から「空き地」も対象に加え、空き家・空き地の流通促進を図っております。

引き続き、市民の皆様や事業者の皆様と連携しながら、空家の解消に向け取り組んでまいります。

公園整備につきましては、ＪＲ境港駅前の公園に隣接するスペースに整備する「（仮称）妖怪ふれあい広場」の詳細設計が完了しました。設計にあたっては、市民や事業者の皆様との意見交換会を開催し、いただいたご意見を盛り込んだものとしており、芝生のオープンスペースに、一反木綿と目玉おやじをデザインした遊具やベンチ・休憩施設を設置し、観光客や市民の皆様が気軽に立ち寄り楽しめる、水木しげるロードの玄関口に相応しい広場としております。

来年四月の水木しげる記念館のリニューアルオープンに合わせ、駅前公園の魅力向上を図るため、工事にかかる補正予算を今議会に提案しております。

境港の港湾整備につきましては、令和二年度から境港管理組合が整備してきた二基目のガントリークレーンが、外港昭和南地区国際コンテナターミナルに完成し、七月十一日、供用開始されました。

新たに追加された二号機によって、より大型のコンテナ船にも対応が可能となったほか、二基体制となったことから、故障時に荷役ができなくなるといったリスクの回避や、入港船の増加にも対応が可能となりました。

また、昭和南地区は、バイオマス発電所の燃料船や国際フィーダー航路の定期就航等の利用増加により、岸壁が足りない状況が続いていることから、新規コンテナ岸壁の整備等に向け、取り組みを進めています。

七月二十四日には、中海・宍道湖・大山圏域の市や議会、商工会議所等の経済団体が合同で、国に対し要望を行ったところであり、今後も、圏域一丸となって、早期事業化を求めてまいります。

次に、重要土地等調査法について申し上げます。

「重要施設周辺及び国境離島等における土地等の利用状況の調査及び利用の規制等に関する法律」に基づき、先月十五日、美保通信所及び高尾山分屯基地周辺が特別注視区域に、美保基地周辺が注視区域に指定されました。

この法律は、自衛隊の基地周辺や国境の離島等、国の安全保障上、重要な区域にある土地・建物が、その機能を阻害する行為に利用されることを防止するためのものであり、区域内では、国が利用状況等について調査を行うほか、特別注視区域内では、二百平方メートルを超える土地や建物の売買等を行う場合、契約当事者は事前に国への届出が必要となります。

この法律の目的や重要性、市民生活への影響も踏まえ、住民説明会の開催をはじめ、国が責任をもって制度を周知するよう強く要望しています。なお、市においては、ホームページや市報でのお知らせに加え、チラシの新聞折り込み配布を行い、周知を図っております。

次に、防災対策について申し上げます。

六月一日、「境港市消防団のあり方検討委員会」の会長である消防団長から、検討結果をまとめた報告書の提出があり、現在の六分団体制の維持を基本としながら、団員確保のために、様々な媒体を活用した広報や地域との連携強化を行うことなどが示されました。

この報告書に基づき、消防団機能の維持・強化を進めるため、公民館まつりなど地域のイベント等で消防団の活動を紹介し、市民の皆様への理解促進に努めるとともに、昨年度作成したPR動画も活用して、新規団員の加入促進を図ってまいります。

原子力防災対策につきましては、昨年の改定により、中国電力との安全協定に盛り込まれた「核燃料物質等の輸送計画に対する事前連絡」が、五月にありました。島根原子力発電所二号機の新燃料輸送が今月末までに予定されており、本市では、職員が鳥取県の立入調査に同行し、状況確認をすることとしております。

また、先月八日には、島根原子力発電所一号機の廃止措置計画の変更について、安全協定に基づく「事前報告」がありました。中国電力には、住民に対し、分かりやすく丁寧な説明を求めており、今月八日に住民説明会の開催が予定されております。

避難所の整備につきましては、この度、拡充された鳥取県の補助制度を活用し、すべての人が災害発生時に避難できる環境を整えるため、避難所用の備品等の充実を図ることとしております。

仮設用の点字ブロックやポータブル電源、ペット連れの避難者を受け入れるためのペット用品等を購入することとしており、関係する補正予算を今議会に提案しております。

最後に、DXの推進について申し上げます。

窓口に来られた方が、何枚も書類を書くことなく、ワンストップでスピーディに手続きを終えることができる、「書かない窓口」「迷わない窓口」の実現に向け、先月、「窓口DX」を推進するプロジェクトチームを設置しました。

現在、窓口の全体把握や課題の洗い出し、改善すべき内容、必要なシステムなどの検討を行っており、来年度のシステム導入を目指しております。

庁内事務処理のデジタル化につきましては、六月に文書管理・電子決裁システムの導入業者が決定し、来年四月の稼働に向けて準備を進めております。

引き続き、ICTの活用やデジタル化の推進により、市民の皆様の利便性向上や業務の効率化に取り組んでまいります。

「マイナンバーの紐付けに関する総点検」につきましては、七月に国から照会があり、マイナポータルで閲覧可能な二十九項目の情報のうち、本市が紐付けを行っている税情報、児童手当の支給状況、予防接種の接種状況など十一項目の紐づけ方法について、回答しました。

先月八日、調査結果に基づく国の中間報告があり、本市においては、適切な方法・手順で情報の紐づけが行われていることから、いずれの項目についても個別データの点検までは行う必要がないとの連絡がありました。引き続き、適切な情報管理に努めるとともに、国の動向を注視しながら、マイナンバー等に関する課題等にしっかりと対応してまいります。

以上、市政の概要についてご報告申し上げましたが、議員並びに市民各位の格段のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。